

# 第6期第5回あま市まちづくり委員会会議録要旨

と き 令和5年2月9日(木)  
午後3時00分～午後4時30分  
ところ あま市美和総合福祉センター  
すみれの里 2階 集会室

## 1. 出席者等

委員	13名
事務局	7名
傍聴人	0名

## 2. 委員長あいさつ

- ・それぞれの課題、やりたいことが見えてきたのではないか。
- ・協働により、あま市をよりよいまちにというところで有意義な提案ができればと思う。

## 3. 議題

協働を通して実現したいあま市の姿

### ○委員長

- ・手元にある資料4枚について、事務局から説明をお願いします。

### ○事務局

- ・前回の委員会が出た意見をまとめた。
- ・資料の内容を含めた企画立案に向けて、各グループに分かれるのか、それとも委員全員で1つを取り上げるのかも決めて、進めていただきたい。

### ○委員長

- ・実現したいあま市の姿というテーマで意見を出し合った。
- ・出てきた意見からキーワードを抽出した。
- ・内外への発信、PRと歴史・文化的な部分での促進。
- ・特徴的なまちづくりとして、他市町と違うようなことができればいい。
- ・世代間交流をもっとやっていくべきという意見。
- ・防犯防災、安全安心への注力。
- ・ごみゼロ、環境美化。
- ・あまつりで新しいことを何かできたらという意見。
- ・それぞれに自分が関心のあるところを選び、グループに分かれて具体的な動きを検討したい。

### ○委員

- ・今日、委員会でやることのゴールはどこか。

### ○委員長

- ・まちづくり委員として、市長に対して今後の協働によるまちづくりについての提言書を出すこと。
- ・そこに向けて各テーマに沿った提案が、そこに載ってくる。

### ○委員

- ・認識が共有できればいいと思う。

### ○委員長

- ・課題の共有もしていただいて、もっとこうなったらいいとか、こういうところを直した方がいいというような意見交換までできるといい。
- ・1年後、成果報告書をまとめることで、一つ形になってくると思う。

### ○委員

- ・提案ですが、また同じ話が出てくると思う。
- ・次第に毎回、ゴールの記載があった方がいいと思う。

### ○委員長

- ・事務局どうか。

### ○事務局

- ・例えば、提言に向けた話し合いと表記するとかですか。

### ○委員

- ・提言に向けての話し合いとだけ書かれると、やれることをやるというのは、その時点で欠落すると思う。
- ・事務局で1回ゴールを示していただき、認識と合っているか確認すべきだと思っている。

### ○委員

- ・一つテーマを取り上げて、それを皆さんで討議するとバラバラにならないのではないか。

### ○委員長

- ・グループで分けるので、その部分はそのグループにお願いすることになる。
- ・結果的に全体で意見交換になる。

### ○委員

- ・5番目にある世代交代について、親子で参加すると自然と後に繋がっていくようなイメージで、支援じゃなくて自分で学ぶということが大事じゃないかと思う。
- ・まとめようと思うと、議題を一本にした方がいいと思う。

### ○委員

- ・この10項目あるのを提言書にまとめようとする、一個一個が内容薄いものになるんじゃないかといった危惧もある。
- ・何個かグループワークをして、最後にグループワークで大体の意見をまとめてもらう。
- ・他の方たちの意見を聞いて、こういった部分をもうちょっと深掘りしていったらいいんじゃないかと思えば、次回のそのグループワークに行くことも想定される。

### ○委員

- ・提言が、どこまでの提言なのか人によってイメージが違う。

- ・重要度、順番をつける。
- ・イベントをやると仮定や前提条件をつけてしまえば、1から8を含めて議論することによって、建設的でイメージもわきやすい。

#### ○委員長

- ・最終的に、例えばイベントをやるというゴールを決めておいて、それに寄せる形で他の視点も入れていくという話か。

#### ○委員

- ・そうです。
- ・具体的じゃないと今期の成果物はどういう形で出すのか。
- ・提言って何か、全然イメージ出来ていない。

#### ○委員長

- ・前回、イベントに集約できるという話があったが、そういうことでもないと思う。
- ・関心のあるところ、得意分野がそれぞれにあると思う。
- ・強みを生かしながら、一旦ディスカッションした上で、それを全体に共有して、もっとみんなで詰めていき、その中でアイデアを固めていく。
- ・あま市は、この辺悪いから駄目だよねって終わり方は残念だと思っている。
- ・実効性、具体性のあるアイデアまで落とし込めるといいのかなというイメージ。

#### ○委員

- ・これだけの人数で話していると、どうしても12分の1ぐらいしかしゃべれない。
- ・グループ分けるとするのは賛成。
- ・会の最後に、それぞれのグループでどんな話がされたか報告は必要だと思う。
- ・こんなこともどうですかってことを、出た数だけ一応市のほうに提案をして、できることからやっていただくようなのはどうか。

#### ○委員長

- ・今の委員の発言がイメージに近かった。

#### ○委員

- ・枠を決めないとバラバラになるので、その辺をきちっと決めていただく。

#### ○委員長

- ・1度、興味関心があるところに分けましょう。
- ・そこで話されたことを全体に戻して、お互いに意見を言い合う機会を持ちましょう。
- ・こういう仕組みを作るってことがゴールじゃないかみたいなのは、グループの中で何が必要かっていうことを話し合ってみてもらったらどうか。

#### ○委員

- ・我々だけで決めていいのか、事務局の意見は。

#### ○事務局

- ・まちづくり委員会はパートナーシップによるまちづくりの施策に関すること、その他パートナーシップによるまちづくりの推進に関して必要な事項について審議・調査を

する委員会です。

- ・ 審議していただいた内容について、市長または市へ意見を述べるができるということになります。
- ・ 決めていただいた内容について、最終的にまとめていただいて、市のほうへ提言していただくという流れになる。
- ・ 事務局から要望はありません。

### ○委員

- ・ 我々の中で優先して決めたことは、進めていけいけばいいと。

### ○事務局

- ・ あま市に必要なと思われるパートナーシップに関する事項について、決めていただければと思います。

### ○委員長

- ・ どのテーマで一番自分が話したいかを、決めていただいてもよろしいか。

### ○委員

- ・ 4個じゃなくて10個か。

### ○委員長

- ・ 10個です。

～参加したいテーマに挙手～

- ・ 内外の発信PRに2人、特徴的なまちづくりに1人なので、1つグループを組んでいただく。
- ・ 協働の促進とあまつりの話も一緒にして4人で。
- ・ 防犯防災、安全安心は3人で。
- ・ 協働の中であまつりの話も一緒に。
- ・ 世代交流は3人で。
- ・ 4つのグループ。

～グループワーク～

### ○グループワーク発表1

- ・ 防犯防災、ゴミゼロを促進について。
- ・ ひと・もの・ことにグルーピングをした。
- ・ 活動を推進する上で、ものは関係なく、ひとと、ことが重要。
- ・ ひとの観点、ことの観点で考えると、やる気、気持ち共に全員明るく楽しくという、ひとの観点でポイントを絞ることにした。
- ・ 全員がやる気を持って、楽しく明るく参加する何かをしなきゃいけないか。
- ・ できる限り多くの人が参加するために、何をしなきゃいけないか
- ・ その何かとは、人を集めること。
- ・ 改めてここをキーワードとした時に、ごみについてのPRができる。
- ・ ごみを出さない、ごみをポイ捨てしない、ごみの分別方法を理解する。

- ・こういったところを、イベントなどでPRすればいい。
- ・防犯防災については、PRが難しい。
- ・解体の補助金はあるが、空き家を活用する補助金はない。
- ・防犯灯を増やすことで安全なまちづくりができる。

### ○グループワーク発表2

- ・世代交流というテーマで話した。
- ・世代交流の理想としては、地域全員が親戚のようにお互い楽しく過ごせる。
- ・サロンについても老若男女でサロンを開くとか、駄菓子屋に子供が店長さんで高齢者がお客さんになるとか、具体的なことをされている人達もいる。
- ・最終的にイベントか何かして、全員が来たくなくなるようなイベントにするしかない。

### ○グループワーク発表3

- ・内外への発信PRについて、内外どちらも課題がある。
- ・特に外に向けてのあま市の知名度は、県下で下から数えて10位ぐらい。
- ・歴史上の人物も素晴らしい方がいっぱいいる。
- ・歴史的な遺産を繋げて、観光ルートマップみたいなものを作成してPRしたらどうか。
- ・内への発信ということで、マッチングはどうか。
- ・あま市ボランティアマッチングアプリを作り、私たちはこういうところで、こういう日に、こういうことをやっていますと発信する。
- ・そのアプリを見ることで、自然と市民にも広がり、市民と市民が結びつく。
- ・環境、SDGsは大事にしたい。
- ・自転車でもとりあえず駅まで行けるようなまちづくりをすると、地球環境にやさしく、健康づくりにもなり、エネルギー問題の解決にもなる。
- ・例えば、レンタサイクルで観光スポットを回れると面白い。

### ○委員長

- ・特徴的なまちづくりということで、自転車で回れるみたいなキャッチフレーズをつけてアピールすれば、電車で来て自転車で観光できる。

### ○委員

- ・キャッチフレーズをつけたらいいと思う。

### ○グループワーク発表4

- ・協働の促進といったテーマで話し合った。
- ・協働と名前がついていなくても協働していることが、たくさんあると思う。
- ・市民の方たちが市外に向けた市のボランティアをするとか、活動するときにはわかりやすい名前があるといいと感じた。
- ・子供たちにPRして、その子供たちが大きくなった時にボランティアや協働できるような人材を、今からあま市で育てていくと良い。
- ・アイデアとしては、ボランティアポイント制にして、何かに交換といったようなものができたらいい。
- ・あまつりなどわかりやすい成果があると、ボランティアした結果を実感できる。
- ・自分たちがボランティアしたことが、どんな結果になったか実感できると、子供たちももっとボランティアに興味を持ってもらえるのではないかな。

### ○委員長

- ・お互いがどんなことに対して課題感持っているのか、どういう事やれば良いと思っ  
ているのかが見えたのではないかなと思う。
- ・課題を一步踏み込んで考えて、具体的なアイデアも出てきている。
- ・これが提言の種というか、ベースになってくる。
- ・具体的なアイデアもあれば、抽象的なアイデアもある。
- ・もっと突き詰めて、現実性があるものにしていく。
- ・まちづくりの趣旨として、協働で地域を変えていくという話だと思う。
- ・それぞれのアイデアに協働の要素をどのようにのせていくか。
- ・話していて重なる部分もある。
- ・それぞれがアイデアをより具体化していき、そこに協働の要素をどう入れていくのか  
を考えてきていただきたい。

### ○委員

- ・協働で思いついたが、協働の別の言い方について、タグとか。

### ○委員長

- ・協働しようというより、みんなでタグって、すごくポジティブでいい。

### ○事務局

- ・次回の開催については、後日連絡します。